

「テンプルの中にいなさい」について

イーシャ・サーデサイ

2020 年4月24日 金曜日

インドの教典は、グルの言葉の力について詳細に語っています——いかにグルの言葉が恩恵と共に流れるか、いかにグルの言うことが現実のものとなり得、また実際に現実のものとなるかについて。『シヴァ・スートラ』の中に、このような格言があります。カタ・ジャパハ——「グルが言うことは何であれ、マントラである」。私は、このスートラの真実を幾度となく自分自身の目の前で見るといふ、素晴らしい栄誉を得てきました。2020 年3月から、シッダ・ヨーガ・ユニバーサルホールで行われている「テンプルの中にいなさい」のサツァングは、その素晴らしい実例です。

今年の始まり、1月2日のシュリー・ムクターナンド・アーシュラムでのサツァングの間に、グルマーイは、SYDA ファウンデーションの責任者たち(その多くがその場にいました)に、ユニバーサルホールでのライブ動画配信を行うこと、そしてそれを頻繁に行うことを確実にするよう要請しました。責任者たちは、これを実行することに心から同意しました。そして彼らがそう言った時、そのサツァングにいた参加者たちは、グルマーイの要請を責任者たちが確実に実行すると知って安心しました。

なぜグルマーイがこの要請をしたかを説明しましょう。その前日の1月1日の「スウィート・サプライズ(嬉しい驚き)」の最中、多くの参加者にライブ動画配信の中断が何度か起きました。シッダ・ヨーガの道のウェブサイトでのライブの動画や音声の配信時にこのようなことが起こるのは、初めてではありませんでした。サンガムの人々は動揺を口にし、そしてそれはもったもなことで

した——皆、シッダ・ヨーガのサツァングのほんの一瞬も見逃したくはなかったのです。人々は、繰り返される技術的問題を SYDA ファウンデーションのウェブサイトの部門に知らせ、また、ライブ動画配信の責任者たちにも話しました。これらすべてを踏まえ、グルマーイは責任者たちに、それらの問題が解決されるよう取り計らうことを求めました——すなわち、SYDA ファウンデーションの IT 部門が必要とされる技術に従事する中で、さらなる経験を積むことを確実にするということです。

グルマーイは、その頃オーストラリアで起こっていたことのためにも、ライブ動画配信を求めました。森林火災は 2019 年の 7 月から国を破壊し始め、そして 1 月までには状況は悪化するのみでした。人々は、肉体的にも精神的にも、命や大地を失ったことで、またそれに伴う彼ら皆の苦闘によって、大変に気力を失っていました。グルマーイは、シッダ・ヨーガの修行によって、彼らに元気の回復を体験してほしいと心から願いました。彼女はサツァングを通して、彼らにいわば「活力のジュースの補充」を願ったのです。

加えて、グルマーイはオーストラリアの火災によって命を失った 15 億匹もの動物たちについて、非常に深い痛みと苦悩を表明していました。ですから、グルマーイがサツァングを行いたいの一つの理由は、あまりにも突然で乱暴な形で去っていったそれらの魂たちに、平安をもたらすためでした。

しかしながら、時間は流れ続け、グルマーイの要請は実行に移されていませんでした。すると、訳が分からないうちに、私たちは COVID-19 のパンデミックという形の世界的危機に見舞われたのです。突如として世界全体は、このとてつもなく当惑するような病、その正確な性質——どう波及するのか、どう変異するのか——が、科学者たちを悩ませ続ける病の脅威に飲み込まれました。突如として私たちは未知の状態に陥り、誰も予定し得なかった極端に異なったものに見える将来と戦うことを強いられました。このことを念頭に置いて、グルマーイは言いました。

「待つのはもう十分。SYDA ファウンデーションはライブ動画配信をやる必要があります。やりましょう。頑張りましょう」

そして3月 21 日土曜日、グルマリーはローヒニー・メノンと私に話をして、世界中のシッダ・ヨーガのサンガムとサツァングをしたいと私たちに伝えました。このサツァングのためのグルマリーの意図は、人々の精神を再び高揚させることでした。

グルマリーがそう話した時、私たちは目を輝かせました。私たちもまた、やりたいと思っていました。私たちもまた、まい進したかったのです。そして——本当にやりました！ 私たちはグルマリーの恩恵と祝福によって、それをやり遂げたのでした。

最初の「 temple の中にいなさい」のサツァングは、その同じ日の晩に、バガヴァーン・ニッシャーナンダ・ temple からライブ動画配信で行われました。情報はすぐに広まり、ほんの2、3時間で56カ国あまりの人々がサツァングに引き寄せられ、「 temple の中にいなさい」にいる準備ができたのです。

その最初のサツァングでは、カメラはたった1台でした。1台のカメラで、グルマリーの教えを受け取り、彼女の輝くダルシャンを受け取り、バデ・バーバの姿の光輝を受け取り、そしてこの恩恵と祝福の驚くべき豊かさを世界中に届けたのです。そうしてグルマリーの意図はかなえられ、人々の精神は再び高揚することができました。その夜は、ほんのわずかの人のみが temple にいるよう招かれました——セーヴァーをささげる人たちと数人の参加者だけで、しかも着席の仕方もかなり普通とは違っていました。私たちは、ニューヨーク州政府の指示によるソーシャルディスタンシング（社会的距離）の制限に則って、互いに少なくとも2メートル離れて座りました。

グルマーイがそのサツァングの最中の席の配置について話したこと、そして、それがいかに彼女が 10 代の頃や青年期にグルデーブ・シッダ・ピートゥにいた時のことを思い出させたかについて話したことを、あなたは思い起こすかもしれません。グルマーイは、いかに彼女と友人たちが、欧米人、とりわけ初めてアーシュラムを訪れていた人たちの座り方に注目していたかについて、楽しそうに語りました。彼らは、少なくとも 1.5m 以上の長さはある大きなクッションを中庭に引きずって来て、そのクッションを自分たちの場所を確保するために使いました。

いったん落ち着くと、彼らは自分自身に大変「精神的な」オーラをまとって静かにそこに座りました——実際、欧米人だけが身にまとうことができたような類いのものです。彼らはそこに座り、バーバのダルシャンを積極的に吸収し、これ以上なく熱心に彼の講話を聞き、筋金入りのヨーギたちのように瞑想し、死に物狂いでスワーデャーヤをしました——その間ずっと、クッションに囲まれている限りは誰も彼らの領域に入る者はいないと、確信に満ちていました。彼らが自分自身の周りにとても熱心に築いた要塞(ようさい)のせいで、誰もそれができなかったのです。

残念なことに、それはまた、中庭に座ったインドの信奉者たちにとっては、バーバを見てダルシャンを受け取るのに苦労したということでもありました。第一に、一般的にインド人は欧米人よりも背が低いということです。そして、それら背の高い欧米人は、クッションの山の上に座ったのです！ グルマーイと友人たちは、これは実に面白い光景だと思いました。彼女たちは笑って、笑って、笑い転げました——けれどもグルマーイが言ったように、決して欧米人やバーバの前ではしませんでした。

3月 21 日のサツァングの中で、グルマーイは言いました。「この光景が今よみがえりました。誰もが自分の空間を保持し、他の皆にもそれぞれ空間を与えることを強いられています。以前は個人の選択だったものが、今は法律になったのです」

後にグルマーイは私に、カルマは常に自分に戻ってくるのだから、他者がすることを決して笑ってはならないことがいかに重要かを話しました。グルマーイは言いました。「あれは随分前のことです。とても無邪気な楽しい瞬間だったけど、今見てごらんなさい。あの欧米のシッダ・ヨーギたちの行いが法律になってしまいました！ そう実際、彼らはとても予知能力があったのです」。グルマーイと私は、これに思う存分笑いました——いかにすべてのことが時と共に一周して元に戻るのかということに。

初開催のライブ動画配信のサツァング、「テンプルの中にいなさい」は、多くの点で成功でした。その後で、グルマーイはローヒニーに言いました。「どうやら、あなたにはライブ動画配信を実施するために必要なものが備わっているようです。あなたは肩書き持って、この精神を高揚させる輝かしいセーヴァーをささげ続けなさい」

すぐ翌日に、ローヒニーはグルマーイの所へ行き、多くのブレインストーミング、協議、良い点と悪い点の比較を重ねた結果、彼女と彼女の同僚たちは「マネージングディレクター」という肩書きに決めたと言いました。ローヒニーは続けてグルマーイに、彼女がその肩書きを選んで受け入れた理由のすべてを列挙しました。

グルマーイは言いました。「良いでしょう。どんなものでもいいです——あなたが制作し、シッダ・ヨーガ・サンガムがあなたが作るものから恩恵を受け、彼らの精神が高まるのであれば」

そうして、進めるためのグルマーイの祝福を受けて、ローヒニーは——なりたてのマネージングディレクターとして——これらのサツァングを制作するために、SYDA ファウンデーションのスタッフメンバーのとても小さなグループを招集しました。それ以来、シッダ・ヨーガ・ユニバーサルホールでは、より多くの「テンプルの中にいなさい」のサツァングが行われ、その開催は続

いています。私は先ほど、グルの言葉が現実のものとなることについて話しました——何らかの形や方法で、いつもあなたが期待した形とは限らず、グルの言うことがまさに実現するのです。私はまた、あるヒンディー語の言い習わしも思い出します。それはグルマーイが自分のお気に入りの一つだと私に教えてくれた、「ジャー・チャー、ヴァー・ラーハ」です。もしあなたが燃えるような願い、願望、切望を持っているなら——あなたはそれを実現する方法を見つけるでしょう。あるいは、「意思のあるところに道はある」

私はそのサツァングに付けたグルマーイのタイトル——「テンプルの中にいなさい」——を初めて聞いた時のことを覚えています。私は興奮し、同時にとても感動しました。そのタイトルについての何かが、それらの言葉についての何かが私の中にとどまり、私に深い影響を与えたのです。私はこのことをアミ・バンサルに話しました。彼女は私が一緒にシッダ・ヨーガの道のウェブサイトで執筆のセーヴァーをしている人です。「アミ」と、私は言いました。「正確にはなぜか分からないけれど、このタイトル——まさに正しいと感じます。あなたは「テンプル」という言葉について何かもっと知っていますか？ 何かより深い意味がありますか？」

さて、アミはインドに住んでいるサンスクリット語の学者です。ですから、私がその言葉と語源についての質問を彼女に尋ね始めた時、電話を通して実際に彼女のあふれる喜びが聞こえました。彼女は笑って、「もちろん！」と言いました。彼女は説明を始めました——ようやく知識を渴望する生徒を見つけた教師の熱意のすべてを持って。

ヒンディー語で「テンプル(神殿)」を表す言葉はマンディルであり、サンスクリット語のマンディラムに由来すると、アミは言いました。マンディラムの主な意味は、「住居」、「住まい」、「住宅」、または「家」です。マンディラムには、「心」、「気づき」、そして「意識」を意味する「マン」という言葉も含まれています。従って、アミは、神聖なる意識の家または住居という場所を指す言葉として、マンディラムを理解することができると言いました。

このタイトル、「 templeの中にいなさい」と、住居または家の概念との間には、もう一つの興味深いつながりがあります。あるシッダ・ヨーギが、誰かがソーシャルメディアにタイトルの文字から作成した頭字語を投稿したことを教えてくれました。頭字語は「BEIT」で、この人とその友人たちは、アラビア語で *beit* は実際に「住宅」または「家」を表す言葉であるとコメントしました。それは、神聖な空間を表す言葉として使われさえするのです。

最近、私はグルマールとの会議に出席したのですが、彼女はなぜこれらのサツァングに「 templeの中にいなさい」という名前を付けたのかを説明しました。グルマールは、この名前は人々に「 temple」という言葉についてのより良い理解をもたらすでしょうと言いました。ほとんどすべての言語で、「 temple」という単語に相当するものがあります。それは、ほとんどすべての文化や宗教、精神的な伝統に見られる概念です。誰もが temple とは何かについての自分なりの考え、 temple を訪れる理由、 temple で起こることのイメージを持っています。 temple は古代から存在しており、今日に至るまで、考古学者たちはいつの時代に建てられたか分からない礼拝所の遺跡を発見しています。そして世界中で、新しい temple が建設され続けています。

グルマールの教えの一つに、身体は神の temple である、というものがあります。つまり、神の住む所というのは、単に物理的な構造物だけではなく、私たち自身の存在の中の場所もそうなのです。ですから、私たちがバガヴァーン・ニッテャーナンダの temple でこれらのサツァングに参加する時、同時に私たちは自分自身の心の中の temple に導かれています。 temple の壁の内側にビシュラーム、つまり真の休息を見つけるのと同じように、シッダ・ヨーガのサーダナーを通して、私たちは自分自身の中に休息を見つけるよう駆り立てられます。私たちがバデ・バーバの temple の建物を内なる慰め——マインドの平和や私たち自身の強さの再発見——と結び付けて考えるのと同じように、私たちが自分自身の身体を temple として視覚化して尊重する時、私たちがどこにいたとしても、これらと同じ体験をするより大きな機会を得るのです。

グルマーイの説明——およびマンディルに関するアミの説明、そしてさらに beit との偶然のつながりさえも——を聞いて、私は「テンプルの中にいなさい」というタイトルの重要性をより理解しました。世界の現在の状況によって、はっきりと浮き彫りになったことが一つあるとすれば、それは外側の環境に安定があることを当てにはできないということです。さらに言えば、私たちの身体、マインド、または感情が常に安定していることも当てにはできません。私たちの身体は変動しやすいものです。私たちの思考は揺れ動きがちです。私たちの気分には多くの色があります——青から赤、黄色に変化して、注意しないと、気まぐれに過ぎないことがよくあります。私たちの現実が非常に変化しやすい時、自分自身の想像の作り事を超えて、信頼を置く何かを見つける必要があります——制御や理解力を超えている状況を、理解しようとするマインドを必死に把握すること以外の何かです。

この理由から、私たちはテンプルに引き寄せられます。テンプルは安定しています。テンプルは神聖です。テンプルは聖域であり、神性の存在によって輝いています。テンプルは真理を維持しています。テンプルは平穏に満ちています。テンプルとその雰囲気は、私たちが神の知識に浸ることを可能にしてくれます。

テンプルの中にいると、私たちは時間を超越した体験をします。テンプルの中にいると、私たちは身体の器官を覆う7層の皮膚を超越して旅をします。テンプルは、良いことすべて、偉大なことすべて、達成できることすべての具現です。

このために、私たちは何度も何度もテンプルに戻るのです。

先ほど述べたように、「テンプルの中にいなさい」のサツァングはシッダ・ヨーガの道のウェブサイトを通して、シッダ・ヨーガ・ユニバーサルホールで開催され続けています。そして今では多くの方がご存じのように、それらのサツァングについての情報は、主にロコミ(そしてその手段となるメールや SNS など)によって伝えられています。ロヒーニーと彼女の同僚たちは、3月21日の最初の「テンプルの中にいなさい」のサツァングで、この方法でのコミュニケーションがいかに効果的であるかを知ると、SYDA ファウンデーションは世界中に E メールを送信するのではなく、ロコミを使い続けることが最善の方法であると決断しました。

親しみやすいことは言うまでもありませんが、この方法でのコミュニケーションは、ある新鮮さと刺激があることが分かります。それは、あなたの友人が秘密を打ち明けたり、予期せぬ贈り物をくれるようなもので、「すごい！ 私のために？ 私がこんなことにふさわしいことを何かしたのかしら。どれくらい良い行いをしたのかしら」と、あなたは思います。

ロコミについて同様に本当に気に入っていることは、すべてのシッダ・ヨーギにセーヴァーをささげるチャンスを与えていることです。自己に向いている空間から抜け出し、代わりに他の人のことを考えるよう、すべての人に促します。「他に誰が知る必要があるか？ 他に誰をサツァングに招待することができるか？」。過去数週間にわたって、この種の集団としての貢献がいかに「テンプルの中にいなさい」のサツァングの特徴となっているのかを見て、私は元気づけられてきました。世界中の人々が、このような形でグルマリーのプラサードを配る責任を引き受けています。私にとってそれは、世界中のどこからでもシッダ・ヨーギはセーヴァーをささげることができることを示すものです。あなたはこのようにさえ言うかもしれません——「国境なきセーヴァー」

グルマリーの願いは、これらのサツァングから、誰もが大事に持ち続ける何かを手に入れ、彼らが「テンプルの中にいなさい」からの教えを学び、練習し、吸収し、実行することができることです。ですから、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトの「テンプルの中にいなさい」のページで

は、ライブ動画配信のサツァングからのグルマーイの教えと講話を見つけることができます。サツァングの他のコンテンツは追って掲載されます。シッダ・ヨーギやシッダ・ヨーガ・スワームたちによる話、投稿者や演奏者による体験談、バガヴァーン・ニッテャーナンダ・テンプルの画像や動画などです。

これらの教えを読み、再読し、熟考するための時間を確保することをお勧めします。ライブ動画配信に参加した皆さんには、もう一度それらの体験を味わい、理解を深める機会となります。参加しなかった皆さんは、何があったのかを垣間見るでしょう。どちらの場合でも、それらの教えを活用することをお勧めします——特に今、岐路に立っている時、どうやって進むのか、またはどこへ向かっているのかさえ、はっきりと分からない時に。

最近グルマーイは、著名な環境保護論者で作家のジョン・ミューアからの引用を、私に話しました。ミューアは言いました。「どんなものでもそれだけを取り出そうとすると、それは宇宙の他のすべてのものにつながっていることが分かる」。私たちは現在、すべての人とすべてのことが、相互につながっていることをひしひしと意識しています。ある人に起きたことが、他の人にどのように影響するかを、私たちは見えています。カシミールの誰かの痛みが、マニプールでどのように感じられるか。ブエノスアイレスの誰かの苦しみが、京都でどのように感じられるか。人々はこの種の現象にさまざまな名前を付けています——「バタフライ効果」、「百匹目の猿現象」、またはより身近な「波及効果」もあります。

「テンプルの中にいなさい」のサツァングからのグルマーイの教えを読んで、それらを振り返って、自分自身の人生の中にそれらを取り入れ始めたことで、私が言えることは、痛みと苦しみ
の範囲が飛躍的に拡大するのと同様に、私たちがする良い行いも同じようになり得るということです。恐れ
の代わりに、あるいはただそれがあったとしても、自分の内面に存在する強さと善良さを呼び求めるなら、私たちは独自の波及効果を動かし始めることができます。私たちの運命は、私たちの人生にグルの恩恵を持っているという点で、とても素晴らしいのです。私たちの

運命は、グルの教えを受け取ったという点で、とても素晴らしいのです。そして私たちはそれを実行し、その実行方法を洗練し続ける機会を持っています。私たちがそうすることで、次には私たちのサーダナーの果実を他の人たちをより助けるために使用し、学び体験したことを人類への奉仕とこの地球の管理に提供し、返すことができるのです。



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。